

## プレス発表資料

平成24年10月10日  
独立行政法人 防災科学技術研究所

### 「e コミウェアフォーラム」意見交換会 - 3.11 以降の新しいコミュニティ協働社会を目指して -

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、2012年10月25日、秋葉原コンベンションホールにて、「e コミウェアフォーラム」意見交換会を開催します。

「e コミウェア」は、防災科学技術研究所が地域防災活動等のコミュニティでの協働を支援する情報ツールとして開発したソフトウェア群で、社会でのより広い活用を期待してオープンソースとして公開したものです。「e コミウェアフォーラム」は、「e コミウェア」を活用してコミュニティでの協働を促進することを目的に、2010年3月に設立された団体であり、情報共有・交流の場でもあります。

本会では、現在、積極的に推進されている様々なコミュニティでの協働の最新事例を紹介していただき、それをもとに意見交換を行います。各地域、各コミュニティでの経験・知見を皆様で共有しながら、今後の新しい協働社会について、具体的に議論をしていきます。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会

#### 【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所  
社会防災システム研究領域  
災害リスク研究ユニット  
長坂、臼田  
電話：029-863-7553

#### 【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所  
アウトリーチグループ  
大石、松宮  
電話：029-863-7783  
FAX：029-851-1622

## 「e コミウェアフォーラム」意見交換会の開催

- 3.11 以降の新しいコミュニティ協働社会を目指して -

<http://ecom-ware.jp/>

### 【開催趣旨】

防災、子育て、福祉、地域活性化などにおいては、コミュニティでの協働が必要不可欠です。最近では、携帯電話やスマートフォン、ソーシャルメディアが浸透してきたことで、情報を手に入れたり発信したり、コミュニケーションが取りやすい時代になってきました。情報ツールが気軽に使いやすくなってきたことは多くの人が実感できていると思います。しかし、実際、それでコミュニティでの協働は本当にうまくいっているのでしょうか？

協働のためには、情報やそれを利用する道具だけではなく、それらを効果的に使いながら、人や組織が互いにつながり、それぞれの活動を活発に、継続的に、推進していくことが大事になります。人や組織が育ち、コミュニティが育っていくことが何より重要です。

「e コミウェアフォーラム」は、(独) 防災科学技術研究所が社会でのより広い活用を期待してオープンソースとして公開した「e コミウェア」を中心に、コミュニティの協働を促進するため、2010年3月に設立されました。その後、様々な地域、様々なコミュニティで、これらを活用して具体的な協働が進められてきています。特に、2011年3月11日に発生し、今も続く東日本大震災においては、自治体やボランティアが主体となって、「e コミウェア」を活用した災害対応や被災地支援活動が行われ、現在も継続されています。

このような協働が進められている中には、人、組織、コミュニティとして、様々な努力と苦労が多々あります。その経験をコミュニティ同士で共有し、またそれぞれの活動に活かしていくということも、コミュニティを育てていく上で社会として大事なことであり、「e コミウェアフォーラム」はそのための場でもあります。

そこで、このたび、「e コミウェア」を活用しながら積極的に推進されている様々なコミュニティでの協働の最新事例を紹介していただき、それをもとに意見交換する会を設けることにいたしました。各地域、各コミュニティでの経験・知見を皆様で共有しながら、今後の新しい協働社会について、具体的に議論をしていきます。

— 3.11 以降の新しい協働の社会づくりにチャレンジしていきませんか？ —

## 【開催概要】

主催：(独) 防災科学技術研究所、e コミウェアフォーラム

日時：2012年10月25日(木) 14:00-16:30 (13:30 受付開始)

場所：秋葉原コンベンションホール5階カンファレンスフロア 5A会議室

<http://www.akibahall.jp/data/outline.html>

### プログラム：

#### 1. 開会あいさつ

#### 2. 「e コミウェア」とは

- 現在取扱中のソフトウェア
  - ・e コミグループウェア
  - ・e コミマップ
  - ・相互運用gサーバー
- 今後取り扱う予定のソフトウェア
  - ・e コミクリアリングハウス(仮称)
  - ・デジタルコンテンツアーカイブシステム(仮称)
  - ・電子教材作成&学習支援システム(仮称)
  - ・被災者見守り管理システム(仮称)

#### 3. 新しい事例の紹介

「中部地域でのe コミュニティ活動」

特定非営利活動法人 DoChubu 古瀬勇一

「つくば市民レポーター」

つくばコミュニティ放送株式会社 増田和順

「中越地域における協働コミュニティ展開」

特定非営利活動法人ながおか生活情報交流ねっと 桑原真二

「スマートフォンによるe コミウェアのさらなる進化とコミュニティでの活用」

株式会社ナブラ・ゼロ 小島誠一郎

「災害ボランティアセンターの運営と被災者見守り支援 -宮城県での取り組み-」

株式会社SRA 東北 檜木秀人

宮城県災害ボランティアセンター 池田真幸

「東日本大震災の情報アーカイブと防災電子教材作成・学習支援」

独立行政法人防災科学技術研究所 長坂俊成

「地域協働での防災活動推進としての防災コンテスト」

独立行政法人防災科学技術研究所 李泰榮

#### 4. 今後の展開と意見交換

地域での活動をより活発に進めるための取り組みと今後の新しい協働社会について

#### 5. 閉会あいさつ

### 【参加申し込み】

事前に次のサイトよりお申し込みください。満員になり次第〆切とさせていただきます。

<http://ecom-ware.jp>

### 【参考：「e コミウェア」とは…】

コミュニティでの協働では、コミュニティ内での情報共有や議論、コミュニティ外への情報発信、コミュニティ間での連携が重要になります。そこには個人、団体、組織といった様々な立場での関わり方があることも重要です。その活動のために必要な機能（情報発信、意見集約、意見交換、活動内容のアーカイブ、スケジュール調整等）をパーツ化し、それらパーツを活動に応じて、閲覧範囲や相互の連動性も調節しながら、組み合わせて使用できるようにしたツールの総称が「e コミウェア」です。現時点では、基盤となる各種パーツをパッケージにした「e コミグループウェア」、地図に特化した「e コミマップ」と地図発信のための「相互運用 g サーバー」で構成されています。e コミウェアフォーラムでは、これらのプログラムのバージョン管理を行うとともに、今後、さらに関連するソフトウェアの開発・オープンソースとしての公開を予定しています。

また、e コミウェアフォーラムでは、新規メンバーを随時募集しております。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

### 【参考：関連する Web サイト（抜粋）】

e コミウェアフォーラム公式サイト

<http://ecom-ware.jp>

つくば市民レポーター

<http://reporter.e298.jp/>

キズナの森（刈谷田川防災公園）

<http://kizunanomori.com/>

宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンター

<http://msv3151.c-bosai.jp/>

311 まるごとアーカイブス

<http://311archives.jp/>

（独）防災科学技術研究所 防災コンテスト

<https://bosai-contest.jp/>



●災害時、復旧復興時のボランティア活動における活用

東日本大震災において、宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンターでは、各市のボランティアセンターと連携し、ボランティアの募集、ニーズの把握、情報の発信・集約等が協働で行われました。これらは現在も継続されています。

<http://msv3151.c-bosai.jp/>

アクセス  
 情報共有  
 アクセス  
 情報共有  
 アクセス  
 情報共有

地図による情報の入出力、共有

